

独立行政法人奄美群島振興開発基金 事業年度評価の全体評価シート

中期計画の項目	評定	理由・指摘事項等
第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A ⁺ ● A ● B ● C ● D	各指標とも達成されている。一般管理費(人件費・物件費)については、全体としては当該計画を上回る削減実績をあげている。
第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	A ⁺ ● A ● B ● C ● D	各指標とも達成されている。特に、融資業務の期間内処理率は計画を大幅に上回ったと評価できる。また、利用者のリスクに見合った保証料体系と貸付金利体系の検討を行い、適切な保証条件と貸付条件の設定に努め、平成20年度より保証料率と貸付利率の改定を実施を決めた。
第3 予算、収支計画及び資金計画	A ⁺ ● A ● B ● C ● D	保証業務、融資業務ともリスク管理、利益とも計画・予算において相当程度未達である。特に、新規リスク管理債権の発生に課題が大きい。また、余裕金平均残高の増加傾向は財務の効率性の観点から問題があり、今後の改善が必要である。
第4 短期借入金の限度額	-	
第5 重要な財産の譲渡等の計画	-	
第6 剰余金の使途	-	
第7 施設及び設備に関する計画	-	
第8 人事に関する計画	A ⁺ ● A ● B ● C ● D	おおむね順調に達成しているが、それ自体は目的ではないので、目標管理と業績の関連についての分析と反映に努められたい。
第9 その他業務運営に関する重要事項	-	

全体評価

全体として順調に年度計画を達成しており、一般管理費の継続的な削減に努力し、利用者のリスクに見合った保証料体系と貸付金利体系の検討を行い、適切な保証条件と貸付条件の設定に努め、平成20年度より保証料率と貸付利率の改定実施を決めことは評価できる。

しかしながら、リスク管理債権に関する年度計画については計画を大幅に下回っており、特に、新規リスク管理債権の発生に課題が大きい。また、余裕金平均残高の増加傾向は財務の効率性の観点から問題がある。人事計画に関しては、おおむね順調に達成しているが、それ自体は目的ではないので、目標管理と業績の関連についての分析と反映に努められたい。

利益計画において、新規債権に関しては条件設定の徹底、既往債権に関しては資産査定と現行の金利条件の乖離を分析し、利益計画の未達の要因分析を行い、現実的な目標設定を行うことを検討されたい。また、経営指導や事業再生についてもさらに取り組みられたい。